

令和6年度 湖西市環境審議会 会議録(要旨)

開催日時	令和7年2月17日(月) 13:30~15:30
開催場所	市長公室
出席者	(委員)6人 (事務局) 6人
内 容	
1 開会	事務局 環境課長あいさつ、資料確認
2 委員紹介	組織の人事により新たに委員になった藤田委員を紹介 任期は令和7年3月31日まで
3 あいさつ	市長あいさつ 市長： それでは皆様改めましてこんにちは。本日、湖西市環境審議会ということで本当に貴重なお時間をいただき、お引き受けいただきましてありがとうございます。 私も地元育ちでございますけども、環境と自然とは切っても切り離せないような課題でして、特に自然におきましては、中学生の時、夏、秋ぐらいには友達とゴムボートで毎週浜名湖に繰り出して、魚を捕まえたりというような学生時代を過ごしました。湖西連峰におきましても、私は長く空手を競技でやっており、冬のシーズンがオフになるものですから、その時期に関しましては梅田川から湖西連峰に登ってですね、ひたすら山の中を数時間走り回るようなトレーニングをさせていただいて、本当に湖西市の自然に対する思いというのは人一倍強いのかなと思っているところでございます。 また、ビジネスの面におきましても、最近、トヨタさんの WovenCity が話題になりましたけども、そこで LEED 認証という聞き慣れない言葉が話題になりました。実は建築物の環境性能や建物がどのように住んでいる人に対して影響を与えるか、中で働いている方に対してどういう影響があるのかという環境性能評価システム、世界基準でございますけども、それが LEED というものでございます。 実はこの分野で世界と渡り合っている株式会社ヴォンエルフという会社がございまして、社長さんは浜松出身の方でございますけども、その方が非常に湖西を気に入ってくださって、株式会社ヴォンエルフのサテライトオフィスが湖西市にございます。そういった意味でも、非常にビジネスの世界からも湖西市は環境面で注目される場所になりつつあるのかなということでございます。 ぜひ皆様に様々なご意見をいただきながら、湖西市の環境について私も考えていきたいなと思っております。今日は、環境報告書 2024 についての報告があるということでございますので、活発なご審議をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 4 事務局紹介

##### 環境課長が事務局職員紹介

#### 5 会長挨拶

平井会長：

改めまして皆様方どうも大変ご苦労さまでございます。私は今日静岡からやってまいりました。やはり静岡県の西の方へ来るといつも思うのですが、風が強いですね。遠州のからっ風ですかね。いつもびっくりしちゃうのですが、もう皆様方は慣れているかもしれないですね。最近はインフルエンザやコロナ、マイコプラズマなど、様々な感染症が流行っているようでございますので、十分にお体にお気をつけいただいて、日々またご活躍いただけたらというふうに思っております。

さて、私は環境省をはじめ、国の委員会等によく出ること多いのですが、そこでよく言われる話で、環境問題を解決していくうえで重要な三つの大きな柱、これは世界的な基準でございますけれども、一つ目が言うまでもなく、「脱炭素」というものがあります。二つ目が「循環経済」、発生する廃棄物等をどういうふうに経済原則の中でリサイクルリユースリデュースを考えていくか、3Rです。それから三つ目が「自然再興」、これはよく最近横文字でネイチャーポジティブ、生物多様性の推進ということになりまして、生態系と自然がどういうふうに共存共栄していくのか、この三つが世界的には大きなテーマだとよく言われております。

そうしたことについては、まさにSDGsなんて言葉もよくありますけれども、国連が 2015 年に提唱した 2030 年間を目途に世界の 80 億人の大人たちが一緒に取り組んでいこうというテーマがあります。その 17 の項目の中に環境というのがいっぱい入っておるわけでございますけれども、例えば、世界的にはそういったSDGsであったりとかパリ協定であったりとかがあります。

当然、我が日本ということになりますと、今年の 5 月 21 日に環境省が主体となりまして、第 6 次環境基本計画を閣議決定して公表しております。その中で盛んに言われているのが、環境問題を考えるときには、地域資源を活用した自立分散型社会の構築が不可欠ということです。つまり、北海道から沖縄まで同じことをやっているのは駄目で、地域の特性を生かした支援を活用して、それで自立分散型の社会を構築していく。つまり、湖西市は湖西市としての地域のあり方ということをしっかり考えていこうよ、それを行政と市民と企業の皆様方で一緒にやっていく、それによって環境が良くなるだけじゃなくて、環境と経済と社会が総合的に向上していく。環境省だから日本の環境だけが良くなればいいなんてことを言っているわけではなくて、やっぱりそこに地域の活性化も必要なのだ、社会が豊かになっていくことが必要だというようなことを言っている。結果として、ウェルビーイングという言葉が最近流行っていますけど、我々が幸福だなと感じる、毎日幸せだなと、そういうふう感じていく、それが結果的に大事なのだと。環境と経済と社会を統合的に向上させていくことによって、日本国民全体が豊かさを感じている。そういうのが大事だというのが第 6 次環境基本計画で言っております。

それと同時に今年の末でございますが、第 7 次エネルギー基本計画の素案が公表されました。第 7 次エネルギー基本計画では、例えば温室効果ガスの削減とか、いろいろあるわけでございますが、一つとして言うのは、電力構成の中で再生可能エネルギーの比率を今後どうしていく

か、よく原発反対とか原発依存だとかっていう議論もよくあるわけでございます。これについて、今まで第6次までは2030年に2013年対比で再生可能エネルギーの比率を36%から38%にしよう、そういうことをやってきたのですが、今度2040年に40%から50%に変えていこうと書いていたりだとか、国の地球温暖化対策計画の方、これも昨年の暮れに素案がまた出てきたのですが、とにかく、地球上のですね、脱CO2ということの中で、温室効果ガスの削減目標も、今まで2013年から2030年までに46%削減ということを書いていたのですが、これが今度新しく、2035年には60%削減。2040年には73%削減、結果的に2050年に100%削減すると、こんなような話になっています。もう言い出したらきりがいいことをどんどん国の方から発信されています。

そういう流れの中で、我々日本国民がどのように対応していくかということについて、まさにやっぱり世界レベル・国レベルでいろいろ考えることも大事なのですが、皆様方が、湖西市におられる立場として、地域で一体何ができるのか、その辺をしっかりと考えていくことがとても大事だと。その積み重ねが、静岡県全体になって国全体になって世界に広がっていくと、そういうようなことだそうでございます。そういう意味においても、この環境審議会が果たすべき役割というのは非常に大きいかと思えます。

さて、本日の環境審議会でございますけれども、令和3年度から始まりました第3次湖西市環境基本計画に定めた目標とその達成に向けた取り組みの指標につきまして、3年目でございます。令和5年度の達成程度を環境報告書2024として取りまとめていただきましたので、事務局からご報告をしていただくということがあります。その他報告事項につきましては、気候変動適応法に基づき、適応策の実行に関する取り組みをまとめました湖西市気候変動適応計画であったりとか、廃棄物分野に関しましては、湖西市の環境センターの再稼働について等の報告をいただくことになっております。来年度は、湖西市の環境基本計画の見直しの年度にかかるということでございますので、疑問や課題点も含めまして、皆様方から貴重なご意見感想を承ればありがたいということでございます。本日もよろしくお願いいたします。

## 6 審議事項

平井会長：

では早速でございますが、次第に基づいて審議事項に入らせていただきます。

今日は審議事項1件となっております。環境報告書2024ということで、令和5年度の環境政策の概況について、事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

事務局：環境報告書2024について説明

(質疑・意見)

平井会長：

ありがとうございます。事務局より、環境報告書2024の報告書の全体的なご説明いただきました。どんなことでも結構でございます。お気づきの点とかご質問等ありましたら、ご発言の方よろしくお願いいたします。

藤田委員：

24 ページの廃熱の有効利用を実施というところのアメニティプラザに熱供給することで、化石燃料(重油)の使用量を減らしてとありますが、どのくらい減ったのかっていうのは、数字として出たりしますか。

事務局：

この後、各課からの報告で、そのことについてのご報告があると思いますが、お手元に分けてあります廃棄物対策課の資料に載っております。電気量と重油を削減したということで、重油の削減量は、17 万Lです。詳しくはまた後半、廃棄物対策課の説明を確認いただければと思います。

平井会長：

他はいかがでございましょうか、どんなことでも構いません。

清水委員：

お話を伺いたいこと、それから意見などを申し上げます。

まず、光化学オキシダントについて3 ページの指標と現状値。4 ページの環境基準があるが、4 ページでは、環境基準超えとなっているが注意報を出すレベルではない。基準値が二つは違うという理解でよろしいですか。

それから5 ページのダイオキシン類の説明がありますよね。これ主語が抜けているじゃないかと思えます。数多くの異性体の総称とありますが、ダイオキシンには数多くの異性体があって、それらをまとめてダイオキシン類と言うということですよ。

次に14 ページですね。事業系のゴミが65g増えているっていうのは、何か原因があるのですか。

事務局：

光化学オキシダントについて、基準値が違うという認識で問題ありません。

また、ダイオキシンに関しては、訂正いたします。

事業系のゴミについては毎年度、事業によって受け入れる量に変動がございます。令和5年度については、廃棄物対策課より、バイパス沿いの枯れ松伐採の受入れで、量が多くなってしまったっていう話は伺っております。

清水委員：

廃棄物資源化率について、プラスチック面のですよね。ペットボトル以外のリサイクル率がものすごく悪いってことはもうこれはみんな知っていることですよ。どこでも燃やしてしまっているっていうのが、常識と言ったら失礼ですけど、そうですね。

事務局：

以前は、プラスチック類を再資源用に個別に回収していたものが、環境センターの再稼働により、プラスチック類を燃料として燃やすという状況に変わったということでございます。その結果として、資源化率は減っています。

藤田委員：

今まで多分ですけど、回収されたプラスチックは、火力発電所で燃やしていたのでは。

事務局：

後ほど、廃棄物対策課の担当の方に確認させていただきます。

清水委員：

それから 14 ページの下から 2 行目について、二酸化炭素削減を掲げていますが、この文字が一酸化炭素の二乗になっています。

事務局：

訂正します。

清水委員：

それから、今回ですね事前に資料をいただきましたので、読むことができました。

26 ページ、27 ページですね、これは非常に面白いです。実験はありだと思いますね。

特筆すべきは、単に環境公害対策だけでなく、その結果として、疾病予防対策にも有効だということはものすごく素晴らしいと思いますよね。こういう実験や対策はどんどん進めていただきたいと思いますよね。大変なことだと思いますけど。以上です。

平井会長：

事務局の方でお答えいただいた部分もありますが、ごみに関連する話については、後ほど、廃棄物対策課がお見えになってからでよろしいですか。

事務局：

はい。併せて資料の訂正等、ご意見をいただきましたので、そこは訂正してお送りしたいと思います。

清水委員：

一つ伝え忘れましたが冒頭に、課長さんの方から環境審議会とはなんぞやというお話いただきまして、私長いことをやっているのですが初めてです。非常に良いですね。

事務局：

ありがとうございます。

平井会長：

いろいろご意見を承りました。確かにプラスチックを分別しないで燃やせば煙突から煙が出るので、CO<sub>2</sub> を排出する。カーボンプライシングというCO<sub>2</sub> 等の温室効果ガスの価格付けが、来年から始まります。それによって今度、環境税的な部分も決まってくるものですから、Jクレジット制度とどう相殺するかとか、いろんな複雑な話が出てきております。令和4年4月にプラスチック資源循環促進法ができて、環境省の交付金を受ける場合は、プラスチックの分別が必要不可欠になってくるのではないのでしょうか。

事務局：

環境センター再稼働における交付金の際には、プラスチック資源循環促進法の施行前だったものですから、一応、合格を受けており、プラマーク品を燃やすっていうことでも交付金をもらっております。ただ今後、時代もどんどん変わっていけば、当然そういった制約がありますので、次に申請をする際は、また調査して考えていく必要があります。

平井会長：

ですよね。その辺はしっかりまた踏まえておかないと。私も静岡市の清掃対策審議会の会長をしており、静岡市が今度、最終処分場を増設すると。今までは湖西市と同じように静岡市もとにかくプラスチックの分別を一切やらずに、結果的に発電してサーマルリサイクルするから、それで市民の皆様方への還元になっているという説明だったのですが、やっぱり交付金は必要だということで、最終処分場の関係で早速、分別を始めることにしたそうです。

湖西市は、またその時になってからっていうことでよろしいですか。

事務局：

今の焼却場の耐用年数が20年です。ただしプラス10年ぐらい持つと想定していますが、その時には、新しい施設の検討をしながら、リサイクルの方法っていうのも、併せて考えていく必要があるかなど。現段階では、プラスチック類は焼却していくということです。

平井会長：

はい、わかりました。では、環境報告書のご報告でご質問ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

では、私の方から。湖西市は臭気の問題について、前市長の影山市長が会うたびにおっしゃっておられていたのですが、これ思い切って規制基準を変えてしまうのでしょうか。規制基準、臭気指数の基準を厳しくするのですか。

事務局：

規制基準は今まで通りの基準では(市街化区域)15 と(市街化区域以外)18 です。

平井会長：

それをもっと厳しくするってことは、今のところ考えてないということですかね。

何か本当に決定的な対策はどうですか。当然養豚業者の皆様方との連携が必要になるので、重たいテーマで大変だと思いますけど。

事務局：

そうですね。今、担当者の方がいろいろ研究というか産業関係部署と連携してやっています、「次亜塩素酸水」というのがやっぱりここ数年の試みの中で、非常に有効だと。先ほど清水さんにおっしゃっていただきましたとおり病気に対しても有効というところで、事業者の方も積極的になっています。まずは、この次亜塩素酸水で経過を見ていきたいなどは思っています。

臭気指数の数値も若干ですが、次亜塩素酸水を使用することで下がっているということもありますので、継続してそこは、検証していきたいなどは思っています。

平井会長：

なるほど、よくわかりました。23 ページの重点プロジェクト2の部分について、1 年前の審議会の時に、悪臭に関する規制基準の見直しの話が出ていたような気がするのですが、結局これはしばらくやらないってことですね。

事務局：

そうですね。結局、臭気指数を見直したところで臭気を感じなくなるかということ、それは根本的に違う話だということになりまして、今は産業部と臭気対策をどうしていくかということにシフトしております。

平井会長：

わかりました。他はよろしいですかね。

小原委員：

20 ページに書かれている「ソーラーウェイ学習会」とは、どんなことをやっているのですか。対象はだれになるのか。

事務局：

当初は、現地で見学して実物を見ながら、小中学生にソーラーウェイの説明をしていました。当時はバスで行くような形だったのですが、電気設備というところで、安全面の観点とコロナ時期でもあったことから、現在は各小中学校の希望があった際に、学校に伺って授業形式で実施しております。

メニューは2つ用意していて、小さめのソーラーパネルの実験器具を持って行って、実際に発電の実験をするメニューと脱炭素ボードゲームっていうボードゲームでCO2を減らすゲームの2つで、その2つのいずれかを選択してもらい実施しています。

小原委員

はい。ありがとうございます。

小川委員：

本日の資料のことではないのですが、広報こさいに載っていた「地球温暖化対策」について、湖西市地球温暖化対策実行計画ができたときに、「市民に分かりやすい案内ができるといいですね。」とお話していたので、このように分かりやすい案内をしていただき、とても感謝しています。

また、環境報告書の中にも参加型のイベントがいくつか載っていたのですが、ここに参加する人は、すでに意識がある人が多いのかなど。市民全体で、環境問題に少しでも意識して行動を起こせる湖西市になるといいなと思っております。

小中高などと連携して、環境問題に関するクイズを作ったり、答えたりを通して、環境に関する知識レベルを上げありしてみたらどうでしょうか。うなぼんが色々お話しするなど、うなぼんをもっと活用したら良いと思う。

事務局

ありがとうございます。環境については、とっかかりにくい部分もあると思います。お話にあつたとおり、お子さんなども楽しめるようなイベントの企画も検討していきたいと思います。

小川委員：

詳しいことはよく分からないのですが、地球温暖化ということは、「CO2を減らして、酸素を増やしたらいい」という認識なのですが、酸素を増やすには植樹とかのイベントをしたらどうかと。

事務局：

本年度ですが、湖西市と日本製紙と共同で、静岡県「森の力再生事業」というプロジェクトがございまして、そちらの補助金を使って、森林を整備したところです。それを今後、先ほど会長がおっしゃっていたJクレジット化に繋げていきます。Jクレジットを自分たちで使って削減量としてカウントしてもいいし、例えば、それを欲しいという企業がいれば市内の事業者とかに売却して市が資金を得ることができる試みというのでも始めてまいります。

小川委員：

もしそういう山があるなら、そういうことが好きな市民を集めて、木を植えるイベントとかもいいのかなと思いました。



事務局：

湖西市には、林業を生業としている事業者がおらず、森林組合もないため、今回の森の力再生事業に関しては浜松市の引佐森林組合の方に、整備をお願いしました。なので、湖西市で林業を生業とする方々、特に若い人たちが出てくるっていうのは、それは非常に望ましいことなのかなと思います。

平井会長：

ひとつおり、皆さまの意見を伺いましたので、ここで一区切りとさせていただければと思います。

本日、私の方で進行を仰せつかっております審議事項は、この1点だけでございます。皆様方に貴重なご意見を承ったことにお礼を申し上げまして、私の方のこれで進行は、終了とさせていただきたいと思います。では事務局の方にお返しをいたします。

## 7 報告事項

事務局：

ありがとうございました。

次に報告事項に入らせていただきます。環境課より報告をお願いします。

環境課：

令和7年度廃食用油の回収方法の変更について説明

湖西市再生可能エネルギー発電設備の適正な設置に関する条例の施行状況についての説明

事務局：

環境課の報告が終了しました。ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

続きまして、今年度よりできました脱炭素推進室より説明させていただきます。よろしく申し上げます。

脱炭素推進室：

ゼロカーボンシティへの取組状況についての説明

事務局：

脱炭素推進室の報告が終了しました。ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問等ございましたら、お受けいたします。よろしいですか。

続きまして廃棄物対策課より報告をお願いいたします。

廃棄物対策課：

廃棄物対策課主要事業について説明

事務局：

廃棄物対策課の報告が終了しました。ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問等ございましたらお受けいたします。

清水委員：

廃棄物焼却炉から年間に排出する二酸化炭素の量は、どのくらいですか。

廃棄物対策課：

試算では、二酸化炭素の排出量が約 1200t です。削減量としては、1 月末時点で、資料の通り 1270t の削減になります。2 月、3 月を足しますとおおよそ 1400t ぐらいの削減になり、削減量の方が大きいという形になります。

また、環境報告書の際に質問いただいた件ですが、4 月からゴミ出しルールが変わりまして、今までは、燃やせるゴミは生ごみや紙くずのみでしたが、そこに今まで分別していたプラマーク品、白トレイなどといったプラスチックを投入して、環境センターの運営を行っています。こういったものを足しこんで二酸化炭素の排出量が、1200t となります。プラスチック類を投入するには理由がありまして、プラスチック類を入れないと安定稼働する熱量が不足するためでございます。実際に 4 月から、可燃ごみにプラスチックを入れて収集を行っていますが、おおむね予定通りの運営を行えています。プラスチックを入れない場合は、油を入れたりしないと熱量が不足してしまいます。そのため、プラスチックを補助燃料として追加しているという状況です。

今までは、北九州の製鉄所の方へもっていき、石炭と一緒に熱利用させてもらっていました。

日本のプラスチックのリサイクルというのは、約 57% がまだ熱利用となっており、環境省からも、熱利用という正式な名称をもって、リサイクルにカウントしても良いという形になっています。ただ、生ごみ(可燃ごみ)を焼却して熱利用することは、一般的な方法となるため、リサイクルにはカウントされません。今の湖西市の状況ですと、生ごみと一緒にプラスチックを燃やすものですから、熱利用として、リサイクルにカウントできていないのが現状です。

実際にプラスチックをまたプラスチックに戻すってということも技術が進んでいる自治体では行われていますが、まだまだその技術が確立されておりません。

そのため、湖西市としては、まずは、生ごみと一緒に焼却して、熱利用をするという仕組みをとらせてもらっているところでございます。

事務局：

他は、よろしいですか。

つづきまして、水道課より報告をお願いいたします。

水道課：

水道スマートメーターを活用した取り組みについて説明

事務局：

水道課の報告が終了しました。ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問等ございましたら、お受けいたします。よろしいですかね。

最後となります。下水道課より報告をお願いいたします。

下水道課：

下水道課の主要事業について説明

事務局：

下水道課の報告が終了しました。ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問等ございましたらお受けいたします。

平井会長：

水洗化率が83.7%となっているのですが、湖西市の人口が5万7793人で処理区域内人口が2万5662人と半分弱ですね。そうするとあとは、合併浄化槽にしようという流れにあるのですかね。

下水道課：

基本的に市街化区域のところは、下水道整備を行いまして、それ以外のところは、浄化槽で処理する方向になっていくと思います。

平井会長：

1メートルでどれくらいかかるのですか。

下水道課：

場所や道路状況などに左右されますので一概に大体いくらっていうのは、ここでは、金額として言える数字を持っていません。

平井会長：

他の市でもなかなか取り組んでいただけない方も結構いて、啓発に苦労されている自治体も多いと思うのですが、湖西市の場合は、どうですか。

下水道課：

どうしてもご家庭の事情により、ご理解いただくのに時間がかかる場合もあります。案内する際は、下水道料金と浄化槽の維持管理費の比較や生活スタイルを伺いながらご提案しています。

事務局：

他は、よろしいですか。

8 閉会

事務局：

それでは、以上をもちまして、本日の審議会を終了とさせていただきます。大変長時間にわたりありがとうございました。